

製品名: Glut1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11500**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	SLC2A1
別名	SLC2A1; GLUT1; Solute carrier family 2; facilitated glucose transporter member 1; Glucose transporter type 1, erythrocyte/brain; GLUT-1; HepG2 glucose transporter
遺伝子 ID	6513.0
SwissProt ID	P11166
免疫原	抗血清はヒト GLUT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

背景

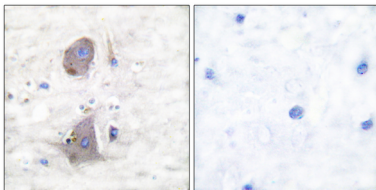
この遺伝子は、哺乳類の血液脳関門の主要なグルコーストランスポーターをコードしています。コードされているタンパク質は主に

細胞膜と細胞表面に存在し、ヒト T 細胞白血病ウイルス (HTLV) I 型および II 型の受容体としても機能します。この遺伝子の変異は、発作性労作性ジスキネジアの家族で発見されています。[RefSeq 提供、2013 年 4 月]、疾患: SLC2A1 の欠陥は、常染色体優性遺伝の GLUT1 欠損症候群[MIM: 606777]の原因です。血液脳関門グルコース輸送障害とも呼ばれます。この疾患は、血液脳関門を通過するグルコース輸送に欠陥を引き起こします。乳児発作、発達遅延、および後天性小頭症が特徴です。疾患: SLC2A1 の欠陥は、ジストニア 18 型 (DYT18) [MIM: 612126]の原因です。DYT18 は、運動誘発性発作性ジストニア / ジスキネジアです。ジストニアは持続的な不随意筋収縮を呈し、しばしば異常姿勢につながります。DYT18 は、突発的な動きや長時間の運動などの特定の刺激によって引き起こされる不随意運動発作を特徴とします。一部の患者では、不随意運動誘発性のジストニア、舞踏運動、および弾道運動が、大球性溶血性貧血を伴うことがあります。機能: 促進性グルコーストランスポーター。このアイソフォームは、恒常的または基礎的なグルコース取り込みを担っている可能性があります。非常に幅広い基質特異性を有し、ペントースとヘキソースの両方を含む幅広いアルドースを輸送できます。オンライン情報: GLUT1 エントリ,PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: 主要な促進因子スーパーファミリーに属します。糖トランスポーター (TC 2.A.1.1) ファミリー。グルコーストランスポーターサブファミリー。細胞内局在: 主に細胞表面に局在する (類似性による)。質量分析により、ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画で同定される。組織特異性: 多くのヒト組織において、様々なレベルで発現する。

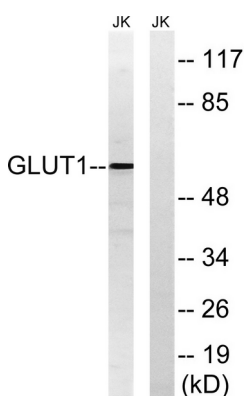
研究分野

アディポサイトカイン;がんにおける経路;腎細胞癌;

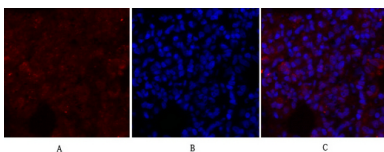
画像データ



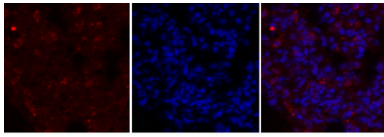
GLUT1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



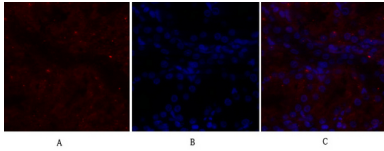
GLUT1 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



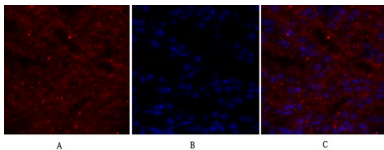
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, Glut1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



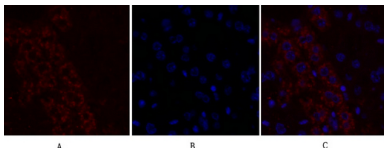
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, Glut1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



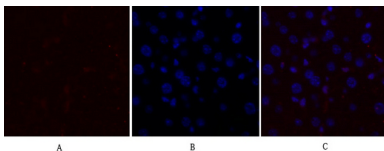
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, Glut1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



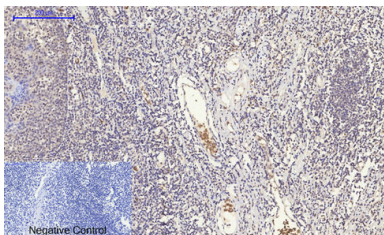
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, Glut1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Glut1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Glut1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. Glut1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。